

一般社団法人日本医真菌学会 2023 年度第 2 回理事会議事録

日時：2024 年 2 月 15 日（木）18：00～20：00

場所：(株)春恒社会議室+オンライン開催（Zoom）

〒169-0072 東京都新宿区大久保 2-4-12 新宿ラムダックスビル 9 階

出席：澁谷和俊（理事長）

泉川公一、金子健彦、杉田隆、原田和俊、福田知雄、榎村浩一、矢口貴志 以上理事 8 名

小川祐美、長尾美紀 以上監事 2 名

阿部雅広、掛屋 弘、佐藤友隆、若山 恵 以上幹事 4 名

欠席：

神田善伸、宮崎義継、山岸由佳（理事）、森 毅彦（幹事）

議題：

（報告事項）

1. メール審議結果報告（澁谷理事長）

2023 年度第 2 回～4 回のメール審議の結果を確認した。

2. 会員異動報告

欠席の宮崎総務理事に代わり阿部幹事より、2024 年 1 月 31 日時点の会員数の報告があった。2023 年末で 39 名が自動退会となり、合計で 915 名となったが、実質的に大きな減少はなかった。自動退会者の再入会に関する審議については後述する。

3. 各種委員会報告・議事

1) 編集委員会（宮崎理事：欠席）

欠席の宮崎理事に代わり、阿部幹事より報告があった。

①2023 年 9 月～2024 年 1 月の投稿論文数は 16 編であった。ただし、MMJ と真菌誌を合算した論文数となっていたため、次回理事会より別々に記載することとした。

②第 67 回総会におけるシンポジウムの演者、および学術賞、次世代研究者賞受賞者への執筆依頼を行い、受諾と寄稿の状況について報告された。

③広告掲載の申込企業について報告があった。

④編集委員会において投稿規定改定の最終案を作成した。この際、抗真菌薬略号一覧も定めることとしている。これについては審議事項 17 で審議した。

2) 用語委員会（矢口理事）

1 月 15 日に開催された、日本医学会分科会用語委員会について報告があった。医学用語改訂の状況について報告された。

3) 将来計画委員会（神田理事：欠席）

欠席の神田理事に代わり澁谷理事長より、特に血液内科医の会員増加のため、講演会等で学会の紹介活動を行っている旨、報告があった。

4) ガイドライン検討委員会（泉川理事）

①希少真菌症診断治療のガイドライン（仮称）作成委員会（掛屋幹事）

パブリックコメントおよび榎村理事による菌学に関する事項の確認が終了し、2 色刷りにて印刷準備を行っていることが報告された。さらに澁谷理事長より、作成委員の COI

掲載について、再度掲載の諾否を確認することが報告された。また、病理の画像を大きく掲載してほしいと要望があり、ページ数の都合上、QRコードを読み取ることで画像を閲覧できるように掲載可能であるか確認している。

②アスペルギルス症のガイドライン改訂版（仮称）作成委員会

泉川理事より、神田理事とともに作成委員の人選を進める予定であることが報告された。ガイドライン作成にあたっての審議については後述する。

5) 支部会・関連学会委員会（泉川理事）

支部会、関連学会の開催状況と開催予定について説明があった。

6) 疫学調査委員会（福田理事）

次回の皮膚真菌症疫学調査は2026年に行う予定であることが報告された。2024年から協力施設の選定を開始し、2028年に論文化を予定している。

7) 教育委員会（杉田理事）

第35回日本臨床微生物学会総会・学術総会（2月10日開催）との合同シンポジウムの開催報告があった。座長・演者を務めた榎村理事より、参加者の技師の方々からも関心が高かったことが報告された。

8) 広報委員会（榎村理事）

報告事項なし。

9) 専門医・認定師委員会（原田理事）

報告事項なし。

10) 規約検討委員会（金子理事）

報告事項なし。

11) 倫理委員会（長尾監事）

報告事項なし。

12) 利益相反委員会（金子理事）

報告事項なし。

13) バイオセーフティ委員会（阿部幹事）

報告事項なし。

14) COVID-19 合併真菌症検討委員会（澁谷理事長）

澁谷理事長、泉川理事、掛屋幹事、金子幸弘代議員を委員として、日本医学会連合より受託したCOVID-19合併真菌症の政策研究を進めており、1月には日本医学会連合の市民公開講座が開催された。COVID-19が5類となり、おそらく来年度が研究の最終年度となるため、結果の取りまとめを行う予定であると報告された。

4. 第67回総会報告（福田理事）

現在収支報告書を作成中であり、約30万円の余剰金を学会に還元することが報告された。

5. 第68回総会、第69回総会、第70回総会準備状況報告

1) 第68回総会（杉田理事）

APSMと同時開催とし、下記日程で開催を予定している。概ね前半2日をAPSM、後半2日を医真菌学会総会とする。なお、理事会、代議員総会は11月7日に開催する。

会期：2024年11月6日（水）～9日（土）

会場：国立京都国際会館

また、参加費について報告があり、両学会一律で70,000円とすることとし、参加費の税

区分についても説明があった。総会の参加費としては例年より高額となるが、国際学会になるべく多く参加者が集まるように検討したものである。さらに、顧問会計士より指示があり、収益の按分について本学会と杉田会長との間で覚書を交わす予定である。

2) 第 69 回総会（山岸理事：欠席）

日時、会場について配布資料により確認した。

3) 第 70 回総会（槇村理事）

日時、会場について検討中であることが報告された。また、70 周年となるため、記念誌の発行について検討している。

6. 関連国際学会・会議に関する報告（杉田理事）

8 月に ISHAM Asia が開催されることが報告された。

7. ICD 制度協議会報告（佐藤幹事）

第 68 回総会にて ICD 講習会を開催することが報告された。

8. 内保連報告（森幹事：欠席）

報告事項なし。

9. 日本医学会・医学会連合報告（若山幹事）

2 月 21 日に日本医学会定例評議員会が開催されるため、参加を予定している。

10. 日本医学会連合女性医師支援担当者連絡会に関する報告（小川監事）

学会の性質上、女性医師の支援だけでなく、同時に若手支援を行うことが重要であると考え、具体的な施策を検討していることが報告された。

11. 日本微生物学連盟に関する報告（杉田理事）

報告事項なし。

12. 学術賞・次世代研究者賞選考委員に関する報告（杉田理事）

代議員による投票の結果、下記の 6 名が選考委員に選出されたことが報告された。

基礎：梅山 隆、槇村浩一、矢口貴志

臨床：泉川公一、原田和俊、宮崎義継

13. 理事・代議員選挙日程に関する報告（事務局）

代議員選挙および理事選挙のスケジュールについて報告された。

14. その他

1) 一般図書への転載に関する許諾料金の割引について（澁谷理事長）

ガイドラインの転載許諾料については、これまで製薬会社のパンフレットなど商用目的利用の定価を定めていたが、一般図書への転載申請があった際、同様の価格を提示したところ、申請の取り下げされたことがあった。このため、公共性が高い一般図書への転載については、学会としての使命を果たすためにも、当面の間、減額の希望があった場合は、転載許諾料を定価の 30% と設定したことが報告された。

2) 富士製薬工業株式会社ハリゾンシロップ販売中止の承認について（澁谷理事長）

富士製薬工業株式会社よりハリゾンシロップ 100mg/mL の発売中止について本学会に依頼があり、面談を行った結果、販売中止を承認した旨、報告があった。

3) 佐藤製薬株式会社からの研究助成寄付金の受け入れ状況について（原田理事）

企業へ研究助成のための寄付金の打診を行ったところ、佐藤製薬株式会社より 3 年～5 年程度、年間 50 万円の寄付を受けることができた。申し込み手続きが完了し、入金待ちとなっている。使用用途は問わないが、学会ホームページに謝辞を掲載するよう依頼があ

り、広報委員会とともに掲載方法を検討した。今年度の使用用途については後述する。

4) 貸借対照表への新規勘定科目の組み入れについて (杉田理事)

公益財団法人 発酵研究所 (IFO) より、2年間で500万円の学会助成金を得た。総会でのシンポジウム等開催費用、教育支援あるいは総会以外でのシンポジウムの開催費用に用いる予定である。また、顧問会計士より、決算時には特定資産として計上するよう指示があり、新規勘定科目「研究教育等積立金」として計上することが報告された。

5) 若手研究者奨学金選考の進捗状況について (宮崎理事：欠席)

欠席の宮崎理事に代わり、事務局より、今年度は4名の申請があり、選考方法について検討していることが報告された。

(審議事項)

15. 代議員選出細則の変更について (金子理事)

理事長が推薦する10%の代議員については、代議員選出細則の資格要件である業績を免除とすることが提案された。これについて審議した結果、同等の資格をもつことは理事長が判断することとし、下記の改定案が提案され、異論なく承認された。

現条文	改定案
1. 資格 (1) 代議員候補者の資格は改選前年の8月末日現在正会員歴が4年以上で、医真菌学に関する業績(原著論文)が5編以上あることを原則とする。	1. 資格 (1) 代議員候補者の資格は改選前年の8月末日現在正会員歴が4年以上で、医真菌学に関する業績(原著論文)が5編以上あることを原則とする。 <u>ただし、理事長の推薦により委嘱される代議員については、理事長が同等の資格をもつと判断した場合、この業績の要件を免除する。</u>

16. 年齢と会員歴の定義について (澁谷理事長)

顕彰制度や助成申請において、年齢や会員歴の要件があるが、これまでその定義があいまいであったため、以下の通り定義づけることが承認された。

一般社団法人日本医真菌学会の各種選考制度における年齢および会員歴の定義は次の通りとする。

- ・年齢は基準日時点の満年齢とする。
- ・会員歴は基準日時点で指定の年数を経過しているものとする。

例えば、会員歴2年以上の場合は、24ヶ月を経過しているものとする。

17. 投稿規定の改定について (宮崎理事：欠席)

欠席の宮崎理事に代わり阿部幹事より、編集委員会より提案された投稿規定の改定案が提示された。これについて審議したところ、引用文献の示し方はバンクーバーシステムに準拠することと、抗真菌薬略語表については日本化学療法学会が制定しているものは同一の略語とすることが提案され、承認された。また、投稿規定で定める記載方法は、本学会が作成するすべての出版物に適用することとし、これを注釈として付記することとした。なお、

投稿規定の全文については、後日メール審議を行うことが承認された。

18. サーベイランス研究補助趣意書と研究助成金趣意書について（阿部幹事）

薬剤感受性試験プレートを活用したサーベイランス研究への支援および、この用途以外の研究費支援についての 2 種類の趣意書案が提示された。どちらの寄付金募集についても方針には異論はなく、企業への打診と具体的な手続きの検討を継続することとした。

19. 佐藤製薬株式会社からの研究助成寄付金の募集要項について（原田理事）

今年度の寄付金については、トラベルグラントなど APSMM 参加への助成に使用することが提案され、同内容の募集要項を作成しメール審議を行うことが承認された。

20. その他

1) 電子帳簿保存法に基づく事務処理規定について（事務局）

令和 6 年より適用された電子帳簿保存法に基づき、事務処理規定の制定が必要であることが説明され、規定案が提示された。これについて審議した結果、一般的でない英単語に注釈を入れるなどの修正を行った上で、メール審議を行うことが承認された。

報告事項での審議事項

1) 会員異動報告

榎村理事より、自動退会者の再入会を認めるかどうかについて意見があり、1 年度分は会費を支払わないまま会誌が送付されているため、例えば、再入会時に当年度分に加えて 1 年度分支払いを求めるなど、再入会時の規則を検討することとし、本件は継続審議とした。

2) アスペルギルス症のガイドライン改訂版（仮称）作成委員会

泉川理事よりガイドライン作成にあたり、議論を迅速かつ円滑に進めるため、必要に応じて委員会を対面で開催したいと要望があり、一同異論はなかった。また、構成については 2015 年のガイドラインの改訂に留めるか、あるいは大幅な刷新をするかどうか意見を募った。2015 年の作成時とは大きく状況が異なることを鑑み、改めて委員会で検討をお願いし継続審議とした。

以上

2024 年 2 月 15 日

議事録作成人 澁谷和俊

議事録署名人 小川祐美

議事録署名人 長尾美紀